

「ICC 出品作の改変に関する公開質問状」への
回答に対する美術評論家連盟の見解について

2019年7月22日
美術評論家連盟
会長 南條 史生

東日本電信電話株式会社広報室、およびNTT インターコミュニケーション・センター [ICC] におかれましては、ご多忙の中、質問状に対して誠実にご回答いただいたことに深く感謝いたします。

ご回答において、新聞で報じられた「企業が運営する施設である以上、不快にさせる可能性があれば原則的に変更をお願いしている」という広報室の発言を改めるとともに、作家（吉開菜央さん）に不本意な調整を要請したことを認め、謝罪を表明されたことに安堵いたしました。ICCが「科学技術と芸術文化の対話を促進」する芸術表現の展示場であり、表現の自律性に対する基本理解が共有されていることも確認できました。

ただし、作品の一部を黒塗りした理由を再度「多様性の尊重、理解」と説明されていることには危惧を覚えます。ここで言われる「多様性の尊重、理解」は、さまざまな差異を重んじ共存させることではなく、差異が現れないように差異を許容せず最大公約数に均してしまうという意味での配慮に思えます。「多様性の尊重」を理由に表現の「多様性」を抑圧するのを是とするような見解は看過できません。

またご回答の一節は、吉開さんの作品にあたかも多様性への配慮がなかったかのような印象を与えるものと言わざるをえません。作品を公開することなしに、つまり一般の判断に委ねることなく、こうした一方的な解釈や印象のみを公表することは公平さを欠くといえるでしょう。

また、単にアドバイザーを加えるという再発防止案は有効でしょうか。質問状に書いたように、広告と異なり、芸術表現の自己管理・統率・監督の権利と責任は作家にあります。あらかじめ組織内で閉鎖的に作品を判断し、多様性をコントロールしてしまうプロセスに問題があった以上、わずか数人の限られた第三者を加えても構造は変わらないでしょう。その検討のプロセス自体を開かれたものにし、数人ではなく試写会などで多くの観客に作品を公開し、多様な反応と意見を求めることこそが重要と考えます。

美術評論家連盟は、今後も ICC のご活動を応援するとともに、作品の自律性の尊重、表現の自由の保障、そして多様性の尊重促進のためにも、吉開菜央さんの《Grand Bouquet／いま いちばん美しいあなたたちへ》の、完全版の公開を望む次第です。